

精華町まちづくり基本構想に関する提言書
～安全・安心と多文化交流による協奏のまちづくり～

平成31年3月

精華町まちづくり基本構想策定懇話会

目次

はじめに.....	1
1. 懇話会の設置・提言とりまとめの経過.....	2
2. 精華町の現状と課題の整理.....	3
2. 1. 精華町の現状.....	3
2. 2. 課題の整理.....	4
(1) 中学校給食の導入.....	4
(2) 打越台グラウンド及び打越台環境センター跡地の一体的活用の検討.....	4
(3) 避難者想定に対する炊き出し機能の不足.....	4
(4) 受援機能の確保.....	4
3. 提言事項.....	5
3. 1. まちのめざす姿.....	5
3. 2. 取り組むべき課題.....	6
(1) 安全・安心に備える.....	6
(2) 多種多様な交流を図る.....	6
(3) 健康増進へつなげる.....	6
(4) 未来を見据える.....	6
3. 3. まちづくり基本構想において取り組むべき事項.....	7
(1) 防災食育センター（中学校給食センター）.....	7
(2) 防災受援施設（打越台グラウンドなど）.....	8
3. 4. 将来的に取り組むべき事項.....	9

はじめに

精華町は、昭和 26 年に川西村、山田荘村の 2 村が合併して精華村となり、昭和 30 年に町政が施行され、精華町となりました。

農業が主な産業で、緑豊かな農村風景が広がるまちでしたが、昭和 60 年に国家的事業に位置づけられた関西文化学術研究都市の建設が進むなかで、その中心として、国の機関や大手企業の研究所など、先端的技術を有する企業が次々と立地し、光台、木津川台、精華台等の住宅地開発と相まって人口も増加したことで、急速な発展を遂げ、まちの姿は一変しました。

この急速な発展の中で、開発が進む学研都市に住み働く人々と古い歴史を誇る数々の村々に暮らす人々との交流をまちづくりの課題としたものの、その成果が出るまでには時間がかかっています。この間も、まちの玄関口として祝園駅周辺を整備し、北部の狛田の区画整理など、都市整備にも取り組んできました。

一方、日本は平成 20 年をピークに人口減少が始まり、学研都市開発で今でも人口増加が続いている精華町も、間もなく人口減少や少子高齢化が進行します。人口増加によるボーナス効果が、減少によるオーナス効果に転ずる時代の都市は、長年続いた成長を目指すまちづくりから、社会の成熟に沿ったまちづくり、量から質への転換が求められます。成熟の時代の精華町まちづくりの課題は利便性の向上だけでなく、多くの市民、事業者が住み続けたいと思う魅力を磨くことにあります。

精華町まちづくり基本構想策定懇話会では、この魅力とは何かを議論しました。今回の基本構想でその整備を検討した 2 施設は、この魅力づくりに必ずしも貢献しません。しかし、施設が計画されている場所の一つは祝園駅周辺、もう一つは自衛隊駐屯地の隣で、精華町の将来を考える上ではとても重要な場所です。

懇話会では、このような視点に立ち、精華町のまちづくりのめざす姿に思いをめぐらし、新たな時代に多様な人々が交流する小さいけれども魅力ある都心と、豊かな自然の中で存分に運動する中で交流が進む場となるように施設の位置付けや役割を模索しました。

精華町の名の由来は『教育勅語』にあるそうです。精華の意味は、「ものの本質をなす優れた様」です。懇話会が「まちのめざす姿」を提言するに当たり、この命名に関わった先人たちの想いを新たにしようと考えました。精華町が学研都市の中心のまちとして、今後も発展・成熟し、その名の由来のとおり、魅力あふれるまちとなるために、町長さんはじめ、様々な町民の皆さん、地元企業の皆さんの一層のご努力を期待します。まちの精華を輝かせるまちづくりへの取組みは続きます。

精華町まちづくり基本構想策定懇話会

座長 宗田 好史

1. 懇話会の設置・提言とりまとめの経過

精華町のまちづくりに関する課題解決や安全・安心のまちづくりを推進するための「精華町まちづくり基本構想」（以下、「基本構想」とする。）を策定するにあたり、有識者や関係団体、住民から幅広く意見・提案を求めることを目的として「精華町まちづくり基本構想策定懇話会」（以下、「懇話会」とする。）を設置しました。

表 1 構想策定の経緯

平成30年11月	精華町まちづくり基本構想策定懇話会設置	
▼		
懇話会の開催日程		主な議事
第1回	平成30年 12月11日	<ul style="list-style-type: none">● 精華町内の課題やまちづくりの理念について● 施設整備について
第2回	平成31年 1月30日	<ul style="list-style-type: none">● 現場調査● 「防災食育センター」に付加すべき機能について
第3回	平成31年 3月6日	<ul style="list-style-type: none">● 「防災受援施設」に付加すべき機能について● まちづくりの理念について● 提言書(案)について
▼		
平成31年3月25日	懇話会提言 精華町教育長への報告	

2. 精華町の現状と課題の整理

2.1. 精華町の現状

精華町はこれまで、けいはんな学研都市（関西文化学術研究都市、以下「学研都市」という。）の開発と各駅前整備を中心にまちづくりを行ってきました。特に、学研都市の中心地区である精華・西木津地区には学研都市の中核的な交流施設であるけいはんなプラザや国立国会図書館関西館をはじめ、各企業の研究施設や研究開発型産業施設¹の立地が進んでいます。

また、駅前整備としては平成3年に南部拠点である山田川駅周辺の整備が行われ、平成5年にはまちの拠点であり学研都市への玄関口である祝園駅周辺の整備が行われました。そして平成30年度末には北部拠点である狛田駅東土地区画整理事業が完了する予定です。

このような経過により、精華町においては中部から南部地域の開発や駅周辺整備は一定行われてきましたが、北部地域については、狛田駅の整備や学研南田辺・狛田地区の開発が予定されている地域であり、今後の活性化が期待されています。

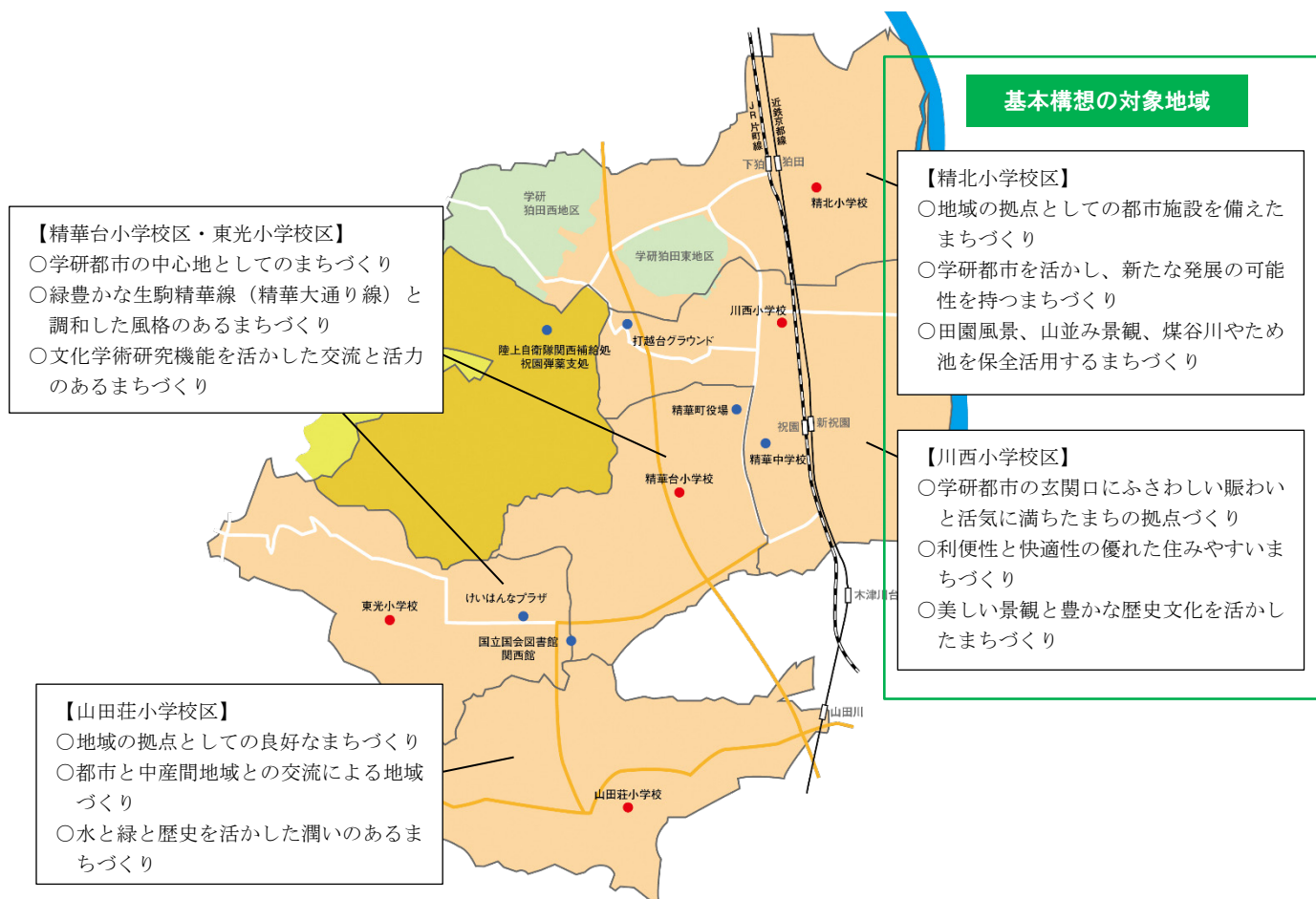


図1 各地域の地域づくりの目標 —都市計画マスタープランより—

¹ 国の「関西文化学術研究都市の建設に関する基本方針」に規定された研究開発と生産を一体的に行う企業の事業所

2. 2. 課題の整理

(1) 中学校給食の導入

平成 30 年 3 月、食育の「生きた教材」となる学校給食を小学校から中学校まで一貫して運営するため「精華町学校給食基本構想」が策定され、中学校給食の実施や学校給食を活かしたまちづくりが求められています。

(2) 打越台グラウンド及び打越台環境センター跡地の一体的活用の検討

町北部に位置する打越台グラウンドは施設の老朽化などの課題を抱えています。また、隣接する打越台環境センターについては解体撤去工事が計画されており、施設の撤去後には当該敷地が本町に返還される予定となっています。

そのため、当該グラウンドの改修や再整備を検討する際には、打越台環境センターの敷地を含めた一体的な活用方法について検討する必要があります。

(3) 避難者想定に対する炊き出し機能の不足

生駒断層を起源とする震度 6 強の地震を想定した際、精華町内における長期避難者数は 4,700 人と想定²されていますが、「精華町地域防災計画」で計画されている炊き出し可能人員は 3,150 人分となっており、1,550 人分が不足していることから、炊き出し拠点となる施設の整備が必要となっています。

(4) 受援機能の確保

平成 28 年に発生した熊本地震では、支援物資の滞留や、プッシュ型支援³による受入側の混乱、道路状況が不明なことによる輸送の支障などが生じました。また、対口支援（カウンターパート）方式⁴による人的支援が行われ、派遣要請に迅速に対応できたとの評価がある一方で、被災自治体が支援チームを十分に活用できず混乱が生じたなどの課題も指摘されました。

本町においても、支援物資や支援チームの受入れ体制が現状未整備であることから、今後こうした人的・物的支援を受け入れる体制を整える必要があります。

² 「京都府地震被害想定調査報告書」による長期避難者数の想定

³ 国が被災府県からの具体的な要請を待たないで、必要不可欠と見込まれる物資を調達し、被災地へと緊急輸送する支援方法

⁴ 都道府県又は指定都市を原則として 1 対 1 で被災市区町村に割り当て、支援を行う方式

3. 提言事項

懇話会における議論等を踏まえ、今回の精華町まちづくり基本構想が策定されるにあたり、まちのめざす姿、取り組むべき課題、2施設を整備する上で検討すべき事項について提言します。

3. 1. まちのめざす姿

安全・安心と多文化交流による『協奏のまちづくり』

懇話会における議論の中で、精華町のまちとしての特徴について、古くからの歴史や文化を受け継いできた集落を中心とする地区、昭和40～50年代の小規模開発住宅地、学研都市の建設に伴う開発地区がある他、学研都市の開発により集積した先端技術を持つ企業群、本町域の約6分の1を占める陸上自衛隊祝園弾薬支処が存在し、こうした様々な背景により集まった人たちや組織などが共存しているところであると考えました。

これらの人々や組織の交流や連携については、これまでも様々な機会をとおして取り組まれてきていますが、まだ十分とは言えず、精華町がまちとして発展・成熟していくためには、まち全体として交流や連携を活性化し、ほかのまちにはない魅力を造りだし、このまちに住みたい、住み続けたいと思えるようなまちづくりに取り組む必要があります。

また、近年、毎年のように日本各地で自然災害が発生しており、これからのまちづくりを進める上で、災害に対する備えを強化し、安全・安心のまちづくりに取り組むことは欠かせない要素と考えられます。

精華町では、災害に備える上で、2つの機能確保が課題となっていますが、災害時のみを想定した施設では、まちづくりに対する効果が限定的なものとなってしまいます。そのため、平常時においても活用が可能な機能として、先に述べたまち全体の交流・連携の活性化に寄与する機能などの併設を図ることで、より効果的な取組とすることができると考えられます。

懇話会では、以上のような点から、「安全・安心」と「多文化交流」を軸として、精華町に集まった人たちや組織などが、それぞれの持つ役割を果たしながら、それが調和的に重なり合うことを「協奏のまちづくり」と定義し、今後の精華町がめざすまちの姿として提言します。

3. 2. 取り組むべき課題

まちのめざす姿を実現するために取り組むべき課題について、4つの項目を提言します。

(1)安全・安心に備える

- ・ 子どもから高齢者まで幅広い世代が安全・安心に暮らすことのできるまちづくりに取り組むこと

(2)多種多様な交流を図る

- ・ スポーツや文化活動、イベントなど様々な機会を通じて、精華町に住む人たち、集まった人々や組織などの交流を活性化すること

(3)健康増進へつなげる

- ・ 食育やスポーツ、文化活動などをおして、健康増進の取組を広げること

(4)未来を見据える

- ・ めざす姿を見据えたまちづくりに計画的に取り組むとともに、必要となる施設整備にあたっては、効果的な方法を検討すること

3. 3. まちづくり基本構想において取り組むべき事項

まちのめざす姿、取り組むべき課題を踏まえ、今回のまちづくり基本構想における2施設の整備に関して、付加すべき機能や活用方法について、以下のとおり提言します。

なお、施設整備にあたっては、災害時に備えた防災拠点としての機能を備えながら、平常時にも利活用が可能な機能を併せて整備することで、より効果的な施設整備となるよう検討をすることを提言します。

(1)防災食育センター(中学校給食センター)

■災害時

- 非常食の備蓄とともに、災害時の炊き出し機能を整備し、被災者への食料供給を行う防災拠点とすること
- 食物アレルギーのある被災者に対して、安全・安心なアレルギー対応食の供給が可能な機能の整備についても検討すること

■平常時

- 安全・安心で美味しい中学校給食の実施とともに、アレルギー対応の充実を図ること
- まちの玄関口である祝園駅周辺のまちづくりに資するような、様々な人たちが交流できる機会や場所を提供すること
- 食育の発信拠点として、学校教育への貢献や農業や福祉との連携などについても検討すること
- 少子高齢化の進捗を見据えた中で、将来的な施設活用（配食サービスなど）についても検討すること

⇒施設整備によりめざすべき姿

- 災害時の食料供給体制はもちろん、アレルギー対応についても充実を図ることにより、安全・安心で、幅広い世代の人々が住みたいと思えるまち
- 中学校給食センターとしての機能とともに、まちの玄関口である祝園駅周辺の立地環境を活かし、人々が集まり交流できる場所を提供することで、交流が促進されたまち

(2)防災受援施設(打越台グラウンドなど)

■災害時

- 消防緊急援助隊や自衛隊、保健医療支援チームなどの災害派遣の受け入れ拠点として必要な機能の整備を検討すること
- 支援物資の集積と配送の拠点として必要な機能の整備を検討すること

■平常時

- 精華町に集まった様々な人たちが、スポーツや文化活動などを通じて交流できるような機会を提供できる施設整備を行うこと
- 平常時の利便性や災害時の有効性を踏まえて、屋根や屋内施設の整備についても検討すること
- 誰もが利用しやすい施設とするため、交通アクセスの整備などについても検討すること
- 災害ボランティアの経験者や災害現場経験のある自衛隊員の講演、より実践的な防災研修の実施など、防災学習の拠点としての整備を検討すること
- 現在、精華町において構想を策定中の健康総合拠点⁵との連携についても検討すること

⇒施設整備によりめざすべき姿

- 災害派遣の受入れや支援物資の集積・配送など、受援拠点を整備と併せて体制整備についても取り組むことで、安全・安心が確保されたまち
- 誰もが利用しやすい施設整備をすることで、スポーツや文化活動による健康増進やまちの活性化が進み、イベント開催などによって交流が活発なまち
- 防災学習拠点として、講演や防災研修を実施することで、災害を自分事としてとらえ、防災意識の高い住民の増加や、物資の備蓄や避難行動などが推進され、地域の防災力が高まったまち

⁵ 保健センターと子育て支援センターの役割を担う健康総合拠点の整備の必要性、めざす姿や基本的な考え方について、「精華町健康総合拠点施設のあり方検討会議」において、現在、検討が進められている

3. 4. 将来的に取り組むべき事項

まちのめざす姿を実現するため、将来的に、また継続的に取り組むべき事項として、以下の事項を提言します。

- 進出企業の従業員が地域に根づいたり、住民が進出企業に勤めたりするなど、職住近接のまちづくりを進めること
- インフラの利便性を高め、若い人や子育て世代が住みたいと思えるような新陳代謝が起こるまちづくりをめざすこと
- 自然豊かな田園風景や学研都市の綺麗な街並みなど美しい景観を守り、まちとしての物語を造っていくことで、ほかのまちにはない魅力的なまちづくりをめざすこと